



熊本市 感染症発生動向調査 速報



今週は★手足口病が2週連続警報レベルを超えています★また、◆流行性角結膜炎（はやり目）◆感染性胃腸炎 ◆A群溶血性レンサ球菌咽頭炎も引き続き注意が必要です。また、今週は腸管出血性大腸菌感染症（3類全数報告、ベロ毒素の確認されたもの）の報告が2件ありました。



●感染性胃腸炎（細菌性胃腸炎）

感染性胃腸炎には、細菌によるものとウイルスによるものがありますが、夏季に多い傾向があるのは細菌性胃腸炎です。細菌性のものであれば、腸炎ビブリオ、病原性大腸菌（O-157等）、サルモネラ、カンピロバクターなどが原因となります。症状は原因となる病原体の種類、感染経路、身体に入った病原菌の量、感染者の健康状態により異なりますが、主に吐き気や下痢、嘔吐、腹痛、発熱などがみられます。

- ・潜伏期間…1～3日程度（病原体によりもっと長い場合もある）
- ・感染経路…病原体が付着した手で口に触れることによる感染（接触感染）、汚染された食品を食べることによる感染（経口感染）があります。

・流行期……細菌性胃腸炎に関しては、年間を通して発生がありますが、夏場に増加するものが多いです。

◆かかったらどうすればいいの？

- ・細菌によるものであれば、抗生物質の服用が有効な治療法となります。
- ・下痢や嘔吐が続くときには、脱水に気をつけます。嘔吐がおさまったら、少しずつ水分を補給し、安静に努め、回復期には消化しやすい食事をするよう心がけましょう。

流水と石鹸による
2回手洗いをしてね。



◆予防法は？

・帰宅時や食事の前、トイレの後に、流水と石けんでよく手を洗いましょう。二次感染を防ぐため、患者の便や吐物の処理は、直接触れないよう使い捨て手袋やマスクを着用し、汚染された衣類や床などは、次亜塩素酸ナトリウムや熱湯、アルコール（ノロウイルスには無効）等でしっかり消毒しましょう。調理をするときは、中心部まで火が通るようによく加熱（85℃、1分以上）しましょう。

期 間		平成30年 22週		平成30年 23週	
		5/28~6/3		6/4~6/10 (最新)	
疾患名 <small>(百日咳は平成30年1月1日より全数報告へ変更になりました)</small>	疾患の増減	報告数	定点当り	報告数	定点当り
インフルエンザ		4	0.16	6	0.24
RSウイルス感染症		1	0.06	3	0.19
咽頭結膜熱(プール熱)		11	0.69	12	0.75
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		37	2.31	39	2.44
感染性胃腸炎		139	8.69	120	7.50
水痘(みずぼうそう)		11	0.69	7	0.44
手足口病		95	5.94	103	6.44
伝染性紅斑(りんご病)		0	0.00	0	0.00
突発性発しん		14	0.88	15	0.94
ヘルパンギーナ		0	0.00	4	0.25
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)		0	0.00	2	0.13
急性出血性結膜炎		0	0.00	0	0.00
流行性角結膜炎(はやり目)		24	4.80	21	4.20
細菌性髄膜炎		0	0.00	0	0.00
無菌性髄膜炎		0	0.00	0	0.00
マイコプラズマ肺炎		0	0.00	0	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0	0.00	0	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス)		1	0.20	0	0.00